



参考：国連食糧農業機関（FAO）「The State of Food Insecurity in the World 2006」、ほか

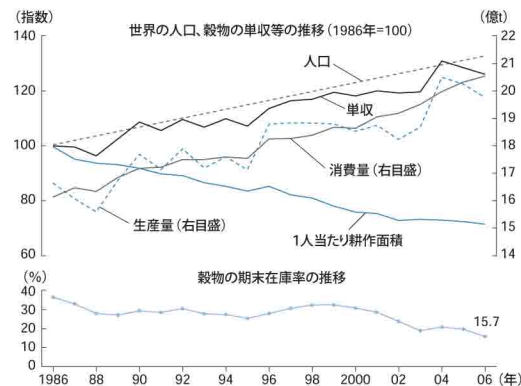
世界の食料問題

B 世界の穀物需給と貿易

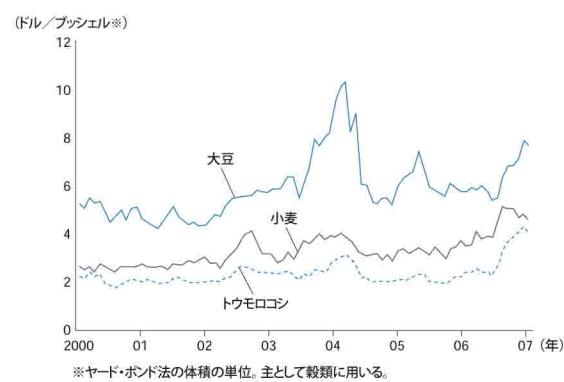
DATA

出典：農林水産省「平成18年度食料・農業・農村白書」、FAO「THE STATE OF FOOD AND AGRICULTURE 2007」

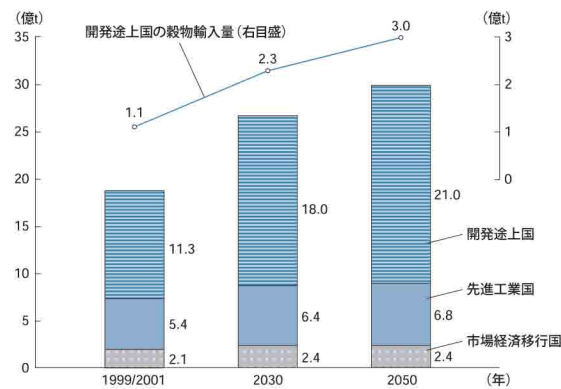
(グラフ1) 世界の人口、穀物の単収等と期末在庫率の推移



(グラフ2) 主な穀物等の価格の推移



(グラフ3) 世界の穀物需要等の予測



(グラフ4) 後発開発途上国の農産物輸出入バランス



しわ寄せは貧しい人々に

近年、世界の穀物需給が逼迫している。人口増加や開発途上国の経済発展に伴い消費量が増加する一方、1人当たり耕作面積は減少し、世界的な豊作だった2004年を除き、生産量が消費量を下回る年が続いた。06年の期末在庫は、世界的な異常気象などにより一部農作物の輸出制限も行われた1970年代前半以来の低水準だ。穀物や大豆の価格も上昇している。異常気象による減産と、石油価格の高騰や温暖化対策を背景としたバイオ燃料への需要増加などが原因だ。

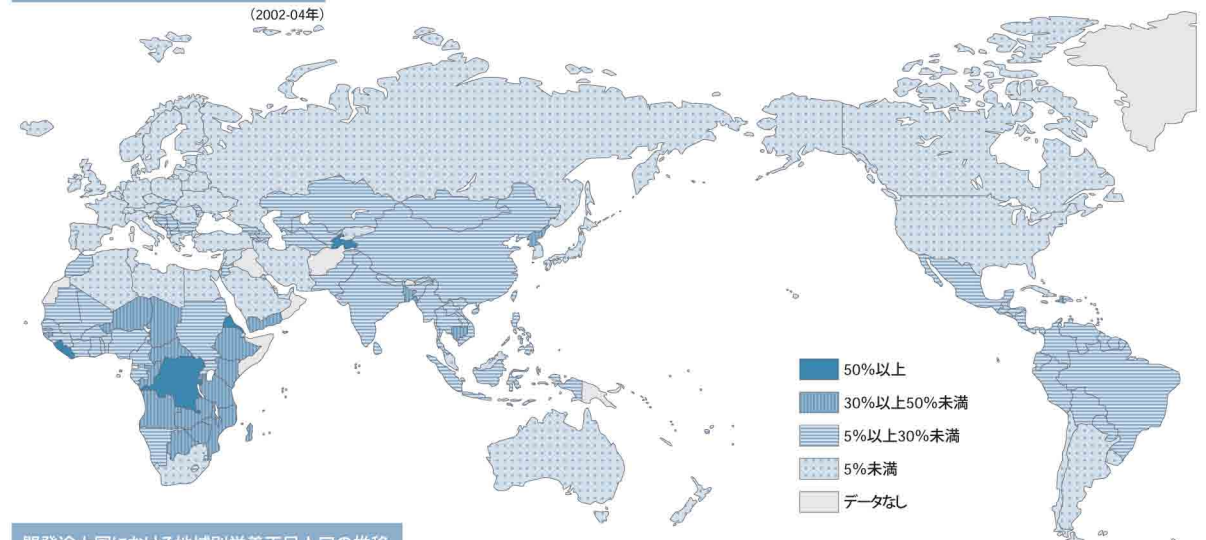
こうした傾向は、先進国以上に、途上国の貧しい人々には深刻な打撃となる。人口が増え続ける途上国では、今後、穀物の大きな需要増加が予測されているからだ。かつて後発開発途上国（LDC）は農産物の輸出国だったが、80年代を境に輸入国へと転じてしまった。今やLDCの農産物輸入額は、輸出額の倍以上となった。途上国の農産物貿易赤字は膨れ上がる一方だ。農村には世界の貧困者の7割以上が住んでいる。貧困削減のため、農業・食料問題への支援が求められている。

A 飢餓に直面する人々

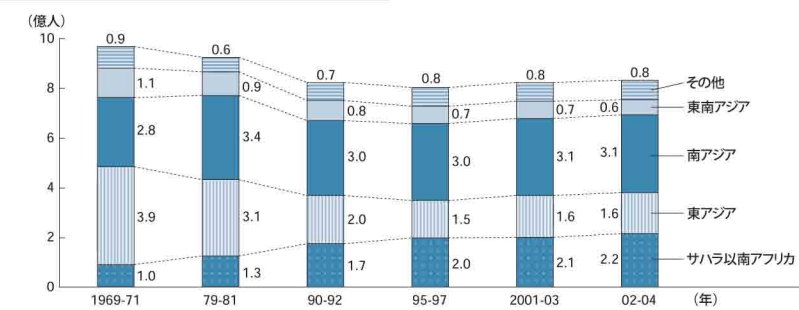
DATA

出典：国連食糧農業機関（FAO）Food Security Statistics (http://www.fao.org/es/ess/faostat/foodsecurity/index_en.htm)、農林水産省「平成18年度食料・農業・農村白書」

総人口に占める栄養不足人口の割合 ※健康な生活を送るために最低限必要なエネルギーを摂取できない状態の人々の数。



開発途上国における地域別栄養不足人口の推移



取り残されるアフリカ

1996年の世界食料サミット（WFS）では、「2015年までに世界の栄養不足人口を半減させる」という目標が設定された。一方、2000年のミレニアム開発目標（MDGs）は「2015年までに飢餓に苦しむ人々の割合を1990年の水準から半減させる」目標を掲げた。国連食糧農業機関（FAO）の推計では、2002～04年の栄養不足人口は8億6,390万人とされる。栄養不足人口の「割合」は、1960年代の終わりから90年代の初めにかけて急激に減った後はゆるやかに減少を続けて

おり、この傾向が続けばMDGsの飢えに関する目標は達成されるだろうといわれている。だが、栄養不足「人口」は増えており、このままでは2015年になっても5億8,200万人が栄養不足状態から抜けられず、WFSの目標には1億7,000万人も及ばない。特に深刻なのがサハラ以南アフリカだ。「緑の革命」により栄養不足人口を大きく減少させた東アジアなどは対照的に、サハラ以南アフリカでは増加が続いている。その原因の一つに紛争があることは、上の地図を見ても明らかだろう。